

令和5年度 今治市立図書館 指定管理者モニタリング結果

施設名	今治市立中央図書館、今治市立波方図書館、今治市立大西図書館、今治市立大三島図書館
所在地	今治市常盤町5丁目203番地2、今治市波方町樋口甲72番地1、今治市大西町宮脇甲506番地1、今治市大三島町宮浦5713番地
指定管理者	<p>名称 TRC今治図書館サポート</p> <p>代表者 株式会社図書館流通センター 代表取締役 谷一 文子 四国通建株式会社 代表取締役 高木 康弘</p> <p>所在地 東京都文京区大塚三丁目1番1号 今治市南大門町一丁目1番地の15</p>
モニタリングの実施方針・方法等	<p>本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。</p> <p>その後、指定管理業務の課題ごとに、指定管理者による自己評価及び市による評価結果を取りまとめました。</p>
担当部課(問合せ先)	<p>今治市教育委員会事務局 教育政策局 生涯学習課</p> <p>TEL : 0898-36-1602</p> <p>E-mail : sgakusyuu@imabari-city.jp</p>

評価内容

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
総則	A	施設の目的や基本方針から外れることなく運営を行いました。新型コロナも5類となり、制限もなくなったことから、イベント等を積極的に開催し利用促進に努めました。	B	施設の設定目的、管理運営の方針、条例、規則、仕様書または本市の図書館や教育行政について理解の上、今治市立図書館のサービス向上に努めている。
利用状況	B	新型コロナが5類に移行したため、来館者も徐々に回復しましたが、コロナ前の数字には戻っていません。貸出に関しては、前年度が館内閲覧に制限があり貸出に繋がっていたようでしたが、館内制限がなくなり館内での閲覧が増えた事が、貸出の数字に影響があったように思います。	B	新型コロナウイルス感染症対応が5類へ移行後、来館数に回復傾向はあるものの、以前の利用状況には戻っていません。一方でコロナ期をきっかけに取り組んだ非来館型サービスが定着し、利用数を伸ばしている面もあるので、利用者に必要とされる様々な利用のあり方を分析し、より求められるサービスに繋がりたい。
事業収支	A	入出金に関するトラブルもなく適切に運用しました。予算については、光熱費が原材料価格の高止まりで負担は大きいですが、なんとか予算内で収まりました。また、人件費に関して、不足人員の補充ができず、当初予算を大きく下回りました。他の項目はほぼ予算通りに推移しました。資料費も予算以上購入しました。	B	市の指定額を満たした資料の購入を実施し、指定管理者の経営状況にも問題がないと思われる。施設の特色上事業収入により維持される性質ではないため、光熱水費の高騰等厳しい経営が続くと予想されるが、適正な人件費の確保と安全性やサービスの低下につながらない範囲で経費削減の努力は継続されたい。
管理運営体制	A	退職者の補充がなかなか決まらず、予定をしていた配置ができませんでしたが、他館からの応援など、スタッフが協力して運営を行いました。そのような状況でも、勤務日数、勤務時間も適切に管理をしました。研修に関しては、Webでの社内研修を必須として全員が参加をしました。その他社外研修にも積極的に参加をしました。	B	人員補充に苦慮する期間があったものの、応援体制等により適切な人員配置と、障がい者雇用に関して基準を上回る雇用率を維持し、事業継続したこと、また多種多様な研修に参加し、コロナ期に整備されたWeb研修により研修機会を確保したことを評価する。司書有資格者の配置に格差があるため、今後の人員配置にも考慮されたい。
管理運営業務	A	適切に管理業務を行いました。移動図書館運行業務に関して、今年度より、ステーションを改正し、伯方島の北浦地区と今治特別支援学校を加え、地域・学校の人たちに読書の楽しさを提供する事ができ大変好評をいただきました。	A	仕様書に定められた業務基準を満たすよう適正に管理運営され、市が開始した島しょ部窓口事業への協力等市の要請にも誠実に対応している。引き続き利用者が快適かつ安全に利用できるよう管理運営を適切に行っていただくと共に、学校図書館との連携、島しょ部窓口開設の広報活動等管理運営への協力を願いたい。

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
利用業務	B	<p>目標に対して、大三島図書館をのぞいて、来館者は達成しましたが、貸出数に関しては、中央・移動図書館以外は、下回りました。原因としては、新型コロナウイルスが5類に変更された事により、館内閲覧の制限がなくなり、館内での利用が増えた事により、このような数字になったと分析しています。</p>	B	<p>定期的に図書館活動がメディアに取り上げられ、X、インスタグラムといった新しい媒体による情報発信を開始し、利用促進に努めていることを評価する。イベント等の機会を通じ図書館のSNSの存在自体をもっと周知、活用されたい。</p> <p>利用状況については施設毎に違った傾向も見られるので個別に要因を分析の上、適正な目標設定と利用回復に努められたい。</p> <p>また、利用者や図書館員への嫌がらせ等問題行動を起こすことに対しては毅然と対応し、今後も安心安全な利用環境を維持されたい。</p>
その他業務	A	<p>実施計画に基づき、適切に対応・実施を行いました。</p>	B	<p>危機管理マニュアル、個人情報保護マニュアルを作成し、事故等連絡体制もおおむね整備され、市への報告も速やかになされている。地震等災害発生時に備えるため、地元自治会等との協力体制を構築する等、事故・災害対応についてより対策に努められたい。</p>
修繕業務	A	<p>専門技術者のもとに適正に管理を行いました。経年劣化による施設の不具合が多く発生していますが、安全対策を優先して修繕を実施しました。</p>	B	<p>施設の老朽化が進み、修繕箇所・修繕規模共に増大する中、指定管理者のできることを随時対応している。</p> <p>今後とも応急的な修繕等や日常点検等により、大きな事故につながらないように管理されたい。</p>
備品管理業務	A	<p>今期も、故障などで、必要とされるものを購入しました。また、備品管理も適切に行いました。</p>	B	<p>おおむね適正に備品の維持管理および購入がされている。</p> <p>既存備品も経年劣化が進む中、計画的な買い替えが必要となるため、適切に実施できるよう環境整備されたい。</p>
行政財産の目的外使用許可 手続業務	A	<p>中央館と波方館における自動販売機の設置および、中央館における「ぶっくんのおみせ」の手続きを適切に行いました。</p>	B	<p>適正に行政財産の目的外使用の手続きの上、管理されている。</p> <p>今後、利用者ニーズについて情報収集し、施設の目的を外れない範囲での新たな取組の可能性も検証されたい。</p>

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
自主事業	A	<p>今年度も、積極的に自主事業を実施しました。地場産業の記録として「タオルびと制作プロジェクト」もHPを通じて継続、新たな事業として「図書館ハローワーク」を開催し、菊間窯業組合の協力のもとに菊間瓦に焦点を充てました。中央の読書講演会では、柚木麻子氏をお迎えし高校生によるビブリオバトルを開催、波方の読書講演会では、あさのあつこ氏をお迎えし作品についての魅力をお話いただきました。大西では、郷土行事の「たのもさんづくり」大三島では、自然講座として「大三島の植物」を講師をお迎えして開催しました。その他にも、岡山理科大とのコラボ企画「今治サイエンスクラブ」や波方海上技術短期大の協力で「船員の仕事を知らう」など地域教育施設と連携した講座を継続して開催しました。今年初めての試みとして中央の歴史講座にて同じ「伊予国府成立」をテーマに歴史専門家と今治東高生の研究成果とコラボして開催し、従来の歴史講座にない参加者の広がりを見せました。また大三島では、北高大三島分校の写真部による写真講座を実施しました。電子図書館の一層の普及のために、教育委員会協力のもと、市内小中の児童・生徒に電子図書館のIDを付与し利用が一気に増えました。その他多くの協力を得ながら400を超える多彩な事業を実施しました。今年度より、新たにSNSを使った広報を開始し図書館で実施しているイベントや展示企画などを積極的に発信しました。</p>	A	<p>多種多様で積極的な事業展開により教育的効果が上がっていると思われる。すべての図書館で本と人と体験を結ぶ各種事業が企画されており、本を通じて地域に文化を還元していることを大いに評価する。 SNSをより活用した積極的広報活動、全施設での企画の共有等今後も工夫した事業展開を期待する。</p>
地域団体との連携	B	<p>「タオルびと制作プロジェクト」では、引き続き城西大学様を通じて、今治のタオル関連の協力のもと公開を続けました。今治史談会様とは、引き続き「国府叢書」の後半部の出版化の協力を続けています。菊間窯業組合様の協力を得て、「図書館ハローワーク」を開催しました。岡山理科大様とは、「今治サイエンスクラブ」をコラボで、他 FC今治様や地元企業との連携を行い事業を実施しました。また、地域ボランティア団体とも良好な関係を続けて協力をいただいております。</p>	B	<p>おおむね適切に事業が実施されている。防災面を考慮した地元自治会との協力体制、図書館の人的資源をアウトプットするような連携も含め、今後とも各種団体・地域活動との連携を進められたい。</p>
利用者アンケート	A	<p>今年度も「来館者アンケート」を実施しました。回収数も1200人あまりの方に協力をいただきました。毎回、新しい項目を追加していますが、今回は新しいサービスの認知度を知る事ができました。この数字を今後活かしていきたいと考えています。</p>	B	<p>アンケート結果は図書館ホームページで公表されており、広く情報公開もなされている。例年実施する項目に加え、5年度に取り組んだSNSの認知度等時事に併せた利用分析に努める姿勢がみられるが、得られた分析結果を運営改善等に反映されるよう今後一層の努力をお願いする。また実施方法も、オンラインを活用した方法等も検討いただきたい。</p>

課題	指定管理者自己評価		市による評価	
事故・苦情	A	利用者からのご意見に関しては「ご意見箱」を設置し、すべてのご意見に対する回答を常時閲覧できるようにしています。また、直接いただいた苦情などは、今治市への報告はもちろん、責任者から一般スタッフまで速やかに共有しています。	B	適切に対応されていると考える。今後とも事故・苦情の情報について職員間でも迅速に情報共有し、課題解決に向けて努められたい。
指定管理者の経営状態			指定管理者として問題なく経営が行われている。	

総合コメント（市）

指定管理者は図書館施設の目的や基本方針などを理解し、関係条例、規則、業務仕様書に基づき、事業計画を立て、適切な業務管理・運営を実施していると評価します。

自主事業として取り組む電子図書館についても、市との連携で市立小中学生すべてへの利用IDを実現し、子どもたちの読書機会を広げるきっかけのひとつとなっています。

SNS等を活用した新たな情報発信、地場産業である菊間瓦を題材にした新規事業はじめ、今治市を舞台とした小説作者を招聘したトークショー開催等多様な自主事業に積極的に取り組み、メディアにも定期的に取り上げられる等市内外へのPRにも効果がありました。

引き続き利用者ニーズの把握・分析を進め、変化する社会情勢に対応した魅力的な図書館づくり、効果的な宣伝広報等、ひろく利用促進を図り、事業提案いただけることを期待します。